

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

一 卸売市場の機能について

答 弁

秋田市中央卸内市場は、昭和五十年の開設以来、県内唯一の中央卸売市場として、秋田市のみならず県内全域の生鮮食料品流通の中核として、極めて重要な役割を果たしてまいりました。

しかしながら、卸売市場を取り巻く厳しい環境変化に対応していくため、現在、開設者である秋田市において、より柔軟な運営が可能となる地方卸売市場への転換に向けた作業が進められております。

地方卸売市場に対する県の立場は、いわゆる許認可庁であり、直接的な市場の運営や様々な復興策の推進は開設者である秋田市が主体的に担うものでありますが、県としては広域的な視点に立った活動等に対し支援を行うこととなります。

こうした状況にあって、転換後の秋田市中央卸売市場は、県内の他の地方卸売市場との連携による豊富な品揃えの確保や、実需者ニーズに即した流通の展開による県産農産物等の販売のサポートなど、流通チャンスが多様化する中であって、県民生活に深く関わる地域の流通拠点として、今後とも、その機能が期待されております。

さらに、開設者である秋田市においては、指定管理者制度を導入し、民間による管理運営に転換することとしており、地域雇用の受け皿の面からも、重要な役割を担っていくことになるものと考えております。

このため、現在、県で策定している「第九次秋田県卸売市場整備計画」では、転換後の秋田市場を、中央ブロックにおける「地域拠点市場」として位置づけることとしております。

なお、県内の卸売市場に、本来の市場機能に加えて、防災機能を持たせるべきという議員のご提案に関しては、大変、有用なものとして拝聴したところでありますが、基本的には、災害時の一時対応権限者である市町村が主体的に検討すべき事項でありますので、関係市町村に対し、検討を働きかけるとともに、市町村が防災対策として位置づける場合は、県としても支援を検討してまいります。

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

二 秋田内陸縦貫鉄道の現状と今後について

1 赤字縮小対策について

答 弁

会社の営業会議は、実務的な情報共有や営業活動の打ち合わせの場として定期的を開催しており、経営改善に向けた重要な方針については、北秋田市、仙北両市長などで構成する取締役会において決定し、進めているところであります。

赤字縮小に向けて、今年度から利用者の少ないダイヤの削減や地域懇談会を通じた住民利用の掘り起こしのほか、JRと連携した観光キャンペーンによる誘客などに取り組んでおります。

今年度上半期の実績見込みは、まだ明らかではありませんが、北秋田市による高校生への通学定期助成などで増収が見込まれる一方で、東日本大震災により国内外からの観光客が減少しており、厳しい状況であることに変わりはなく、一層の経営改善を進める必要があります。

このため、先月下旬に開催された取締役会において、さらなるダイヤの見直しや乗客数に見合った車両の増減などについても検討していくこととし、現在、会社、両市、県の四者で協議をしているところであります。

いずれにいたしましても、厳しい経営環境を改善するための特効薬はないものの、一つひとつ努力を積み重ねるとともに、四者が密接に連携し、赤字縮小に向け、粘り強く取り組んでまいります。

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

二

2 役員を選任等について

答 弁

若杉社長からは、ご家庭の事情により、社長の職責を全うすることが困難となったため、身を引きたいと話があったと伺っております。

経営改善計画における社長の公募は、将来的に新社長を選ぶ場合、広く公募することで優れた経営者を迎えようという考え方を明記したものであり、今般の辞任と関連するものではありません。

また、同計画における報酬額に関する記載については、平成二十一年度の常勤取締役二名を、社長一名に減員することで、トータルとしての報酬額を抑制するという趣旨であり、その額は、経営改善計画で想定している範囲内で決定したものであると聞いております。

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

三 伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録への取組について

3 内陸線の活性化に向けた遺跡の活用について

答 弁

秋田内陸線については、通学や通院など生活交通としての利用促進が基本となりますが、国内外からの観光利用についても、一層力を入れていく必要があります。

このため、伊勢堂岱遺跡をはじめとする沿線の観光資源を活用し、内陸線の利用促進を図ることは、重要であると考えております。

これまでも、この遺跡を含む地域の魅力を内陸線のパンフレットやホームページで紹介してきたところでありますが、さらに全国的に情報発信していくため、例えば、鉄道の愛称募集や駅名の変更などについても検討してまいります。

加えて、日沿道「二ツ井白神・あきた北空港」間の整備によるアクセスの改善を弾みとして、世界遺産への登録に向けた活動を併せ、観光や文化復興など部局横断的な取組を展開し、県北の重要な資源を生かした地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

三

4 世界遺産登録に向けた環境整備等について

答 弁

国民文化祭やJRのデスティネーションキャンペーンは、伊勢堂岱遺跡をはじめとする文化遺産を全国に紹介するまたとない好機ととらえております。

北秋田市では、すでに「伊勢堂岱遺跡整備基本計画」に基づいて環境整備に取り組んでおります。平成二十五年度に整備が完成する遺跡内の見学路やガイダンス施設においては、伊勢堂岱遺跡の持つ魅力を、より身近なものとして実感できるようになると考えております。

その一方で、世界遺産登録のためには、遺跡周辺の環境を将来にわたって保全することが必要であります。文化遺産の保全・活用に積極的に取り組む先進地とするよう、さらに関係機関と協議を重ねてまいります。

本県には、世界自然遺産である白神山地や世界無形文化遺産の大日堂舞楽があります。伊勢堂岱遺跡・大湯環状列石が世界遺産を目指している今、これらの遺産を十分に活用するとともに、三内丸山遺跡など県外の遺産を含めてネットワーク化を図り、文化観光を積極的に勧めてまいります。

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

四 大規模製材工場建設の事業計画の妥当性について

1 事業計画の内容について

答 弁

この計画は、昨年末の原木や製品の市況を参考に、一般製材品やスギラミナを一日二交代制で生産し、設備能力を最大限に発揮することを前提として試算されております。

計画目標が一〇〇パーセント達成されることが理想であります。需要や市況の動向、さらには国際的な為替相場の変動など、様々な要因が工場の経営に影響を及ぼすものと思われれます。

したがって、この大規模製材工場につきましても、収支計画どおりの理想的な経営状況が常に続くという、楽観的な見方は常識的にもすべきではないと考えております。

このため、事業主体が独自に、稼働率にストレス、いわばマイナス要因を加えた四パターンの「負荷シミュレーション」を例示しておりますが、県でも計画の妥当性を判断するため、稼働率に加え、原木と製品の価格変動を組み入れたシミュレーションを作成しており、関係機関にも周知されております。

今後とも、市場動向や経営動向等を踏まえながら関係者と一丸となって安定的な経営を目指してまいります。

次に協定書についてであります。計画策定の最終段階において、販売目標を確認するため、事業主体が関係企業に提出を求めたものであり、正式な購入契約というものではありません。

しかし、協定書を提出した一九社は、いずれも県内外の大手または中堅企業であり、また、協定書には、企業名や製品の種類、購入予定数量が記載され、社印が押された文書でもあることから、企業の購入意志が示されたものであると考えております。

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

四

2 収支計画の審査等について

答 弁

現在、提出されている収支計画については、県が中心となって、関係市や金融機関と随時協議しながら、事業主体を指導してまいりました。

また、事業計画については、昨年九月と今年一月に、県の主催により、関係市と金融機関が一堂に会した検討会を行い、その上で、最終的な融資や補助の判断について、それぞれの機関で決定したものであります。

本事業は、平成十九年度の県予算への計上を見送って以降、数次にわたり計画内容の見直しなどを行ったことから、いくつかの計画がこれまでに策定されておりますが、県では、昨年十二月時点で事業主体から提出された事業計画をもとに、平成二十三年度当初予算への計上を行ったものであります。

その後、本年六月には、新規組合員の加入及び出資金等が確定したことから、その内容を盛り込み、改訂された最終的な計画を、関係機関で共有する共通の計画としているところであります。

なお、事業主体が作成した収支計画のなかに一部記載ミスがあるのご指摘についてであります。計画の説明資料である「資金繰りの計画」の経常収支比率の因子として、本来「現金」のみとするべきところに、「受取手形」を加えたため、過大な数値となったものであります。

さらに、四パターンある「負荷シミュレーション」のうち、三パターンについて、製造経費が昨年十二月時点の数値から改正されておりました。

しかしながら、「資金繰り計画」については、ベースとなる金額の数値に誤りがないほか、県でも独自の基準で「負荷シミュレーション」をチェックしており、当該事業の収支計画の全容に齟齬をきたすものではないと考えております。

今後とも事業の進捗に併せ、経営の健全化に向けて指導を強化してまいります。

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

四

3 進捗状況について

答 弁

建設工事については、当初は、建築確認などの手続きが完了する七月末の着工を予定しておりました。

しかし、工場棟のほか、主要な建物の構造について、鉄骨から木造へと変更したことや、入札手続きに時間を要したことなどにより、工事は、約一カ月ほど遅れ、九月六日に着工したところであります。

今後の工程管理については、当初計画どおり、三月末に竣工するよう、引き続き事業主体を指導してまいります。

また、本年の二月定例会の際に、経営検討会議を設置し、事業実施後の指導を強化する旨のお答えをしておりますが、設置時期は、工場の稼働に合わせ、平成二十四年四月以降を想定しております。

今後、完成までの半年間は、経営検討会議の設立に向けた準備を行うとともに、事業の円滑な進行を図るため、工事の進捗状況や原木の安定確保などについて、関係機関と連携し、事業主体と情報交換を行いながら、指導・助言してまいりたいと考えております。

このため、経営検討会議の前段として、関係市や金融機関などの、実務省レベルによる準備委員会を速やかに開催することとし、現在、関係機関との調整を図っているところであります。

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

五 新行財政改革大綱等について

1 新行財政改革大綱について

答 弁

平成二十二年度の実績評価において、極めて達成状況の低い項目については、原因を分析・検証した上で、短期間に改善が可能なものについては早急に対応するとともに、中・長期的な取組が必要なものについては、目標達成に向けた行程表を作成し、着実に改善を図ることとしております。

併せて、目標設定等の見直しについても、社会情勢や事情の変更に応じ、柔軟に対応してまいりたいと考えております。

行財政改革の推進に当たっては、私を本部長とする全庁的組織である行財政改革推進本部を設置し、横断的な連携のもとに取り組んでおります。

さらに、有識者や公募の方から構成される第三者機関である行財政改革推進委員会からも、ご意見・ご提言をいただくとともに、議会に対しては、六月定例会において実績と実施計画を、また、二月定例会において実績見込みを報告し、ご審議いただいているところであります。

いずれにいたしましても、皆様のご意見を一層幅広く取り入れながら、行財政改革の推進に取り組んでまいります。

また、行財政改革の目標や取組結果に関する公表のあり方については、これまでも大綱の策定の際に見直しを行ってきたところであり、今年度は二回にわたる行財政改革推進委員会のご意見を踏まえ、より実績を反映できるような評価方法に改めるとともに、その内容を具体的に表記いたしました。さらに、達成率の低い項目については、その理由を加えるなどの改善をいたしました。

今後とも、毎年度の実績と計画の公表のあり方について不断の見直しを行い、分かりやすい説明に努めてまいります。

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

五

2 一時借入金について

答 弁

県の資金の収支については、近年の、経済・雇用対策に伴う中小企業への貸付けが増えるなど、年度当初に預託を行う制度資金の貸付金対応分が多額に上っており、年度当初より支出の執行が先行し、収支の均衡を取ることが難しい状況にあります。

一時借入金については、利子を縮減するため、収入については早期収入を図るとともに、支出については契約の内容に応じて適正な時期に支払うほか、借入額についてはその時期及び金額を精査するなど、効率的な執行に努めております。

また、借入利率については、市場金利よりも大幅に低利な利率で借入れを行っております。

今後とも、一時借入金に対する利子を縮減することができるよう、より一層適切な資金管理に努めてまいります。

教育長答弁

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

三 伊勢堂岱遺跡の世界遺産登録への取組について

1 世界遺産登録に向けた対応について

答 弁

三浦議員からご質問のありました、一点目の世界遺産登録に向けた対応についてであります。 「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」がユネスコ世界遺産暫定一覧表に記載されて以来、本登録に向けた取組を、本県と北海道・青森県・岩手県が共同で進めてきております。しかし、議員が述べておられるように、県民の認知度や盛り上がりにかけているということは、県教育委員会としましても課題であると認識しております。

これまで、世界遺産フォーラムや出土品展示会を実施するなど、世界遺産を目指す縄文遺跡群の県民への周知に努めてまいりました。また、平成二十二年度からは三ヵ年計画で、全県の中学一年生に、伊勢堂岱遺跡や大湯環状列石を説明するクリアファイルを配布し、ふるさと教育や歴史学習で活用するなど、未来を担う生徒達に地域の縄文遺跡群のすばらしさを紹介しているところであります。

県教育委員会としましては、地元の理解を得るということで、北秋田市と鹿角市を中心としてフォーラムや展示会を行ってまいりました。今年も十月二日に鹿角市交流センターで、世界遺産フォーラム「ストーンサークルとムラ」を開催いたします。来年度以降は、全県民に周知を図るため、世界遺産に関する説明会と、縄文遺跡群出土品の展示会を、県内各地で開催する予定であります。

また、四道県共同の取組として、縄文遺跡群の世界的な評価を高めるため、海外の専門家を招いての国際会議や、世界遺産委員会でのPR事業などを行ってまいります。

縄文遺跡群の世界遺産登録は、本県にとって地域の活性化と観光振興に繋がる重要な事項と位置づけており、その実現に向けて全力で取り組む所存であります。

教育長答弁

新みらい 三浦（茂）議員

質問要旨

三

2 遺跡活用の提言への対応について

答 弁

二点目の、遺跡活用の提言への対応についてであります。北秋田市では、今年度から、国の補助を受けて「史跡伊勢堂岱遺跡環境整備事業」を実施しており、平成二十五年度までには史跡内の見学路の整備を行い、案内・展示・説明のためのガイダンス施設も設置する予定であります。県教育委員会としましても、これらの事業に積極的に協力し、遺跡を訪れる観光客の利便性の向上に努めてまいります。

伊勢堂岱遺跡は北秋田地域の文化観光の拠点ととらえることも可能であり、今後、地域の文化遺産などを点としてではなく、線で繋ぎそれぞれが互いに連携できる形を構築したいと考えております。県教育委員会では、平成十九年に「文化財探訪マップ」を作成し、観光振興に資する情報発信をしてまいりました。

さらに今年度は、県民の理解を深めるため、縄文遺跡群をはじめ県内の文化遺産を取り上げた「秋田県文化遺産紀行マップ」を作成・配布し、新たなモデルコースを提案いたします。また、来年度以降も、秋田の魅力を紹介する「文化遺産ガイドブック」の作成と、縄文遺跡の紹介と出土品を展示する「縄文紀行展」の開催を予定しております。

なお、これらの事業については、関係機関と密接に情報交換をしながら連携を図って進めてまいります。

再質問

新みらい 三浦（茂）議員

【再質問】

二点ほどお伺いいたします。

先ほど、大規模製材工場の着工が、七月予定が九月六日着工というお話がありました。

このずれ込みによって、新たな資金負担などはないかどうか、確認させてください。

最後に、一借りの件でございますが、質問の中でも述べましたが、中身を知る資料がなかなかありません。今回は、決算カードの中の一時借入金利子というツールしか、そのツールしかなかったんですが、もっと伝え方、何に使ったかということが、分かるような、ガラス張りになるような方策がありましたら、お示しいただきたいと思います。

【農林水産部長答弁】

大規模製材（工場）の工期が一か月遅れましたけれども、これによりまして新たな資金が増嵩するということは考えてございませんし、当然、公的資金のこれ以上の注入はまったくございません。

【出納局長答弁】

一時借入金についてでございますけれども、まず、日々の支払いで、支出が出ていって、それに対して入ってくる収入、それが不足すれば一時借入金が生じる、という形で、収支日計表で収入、支出についてどれくらいであったか、という資料がございます。

それでもって、監査委員の監査を受けております。

【再々質問】

一借りですけれども、昨年度もピークで、何日間であるか分かりませんが、八三三億円の残高になっておりました。大変大きな金額になりますので、詳細というよりも、大きなところで、これくらいの資金が出ていったくらいのは、随時分かるようにしていただければ、細かい百万、二百万はあれですけれども、大どころを掴めるような形で、ガラス張りにしていただければと思います。

【出納局長答弁】

日々の一時借入金の残高、その日何を支払ったか、どんな収入があったか、ということは、すべて収支日計表にございますので、それに基づきまして、定期的に監査を受けているという状況でございます。

それをコンパクトにまとめた資料というのは、今のところございませんので、そちらの方は必要に応じて、作るようにいたします。

<議長>

細かいところはいいけれども、大きいところでも分かるようにしてもらえないか、という質問なので、それについて教えてください。

【出納局長答弁】

分かるような資料を作るようにいたします。